

女性が輝ける社会へ

豊田浩子会頭の実践する リーダーシップと環境づくり

2025年に発表されたジェンダーギャップ指数(※)の日本の総合順位は148カ国中118位である。静岡県においても、政治分野や地域活動、まちづくり推進等における女性の参画は少ない状況にある。商工会議所も同様で、全国でも女性の会頭は4人しかいない。そのうちの1人、袋井商工会議所の会頭を務めている豊田浩子さんに、自身の歩みや、地域の女性リーダーとして、女性が輝くための働きやすい環境づくりへの思いについて聞いた。

※世界経済フォーラムが毎年発表している国ごとの男女格差の状態で度合いを示す指数

商工会議所の役割

商工会議所は、地域企業・商業の活性化や中小企業支援などに関わる業務を行っています。具体的には、会員企業の経営相談や情報提供といった個別の支援から、各種セミナーや講演会の実施、地域活性化のためのイベント開催、国や地方公共団体への政策提言まで、幅広く地域経済と社会の発展に貢献しています。会員企業は大企業から中小企業、さらには個人事業主までさまざまですが、袋井商工会議所は主に中小企業や小規模事業所を支援しています。

袋井市は、静岡県内では長泉町



豊田 浩子(とよだ ひろこ)さん

静岡県袋井市生まれ。65歳。
大学卒業後、父の経営する卸売業の丸尾興商株式会社で働く。経理部長を経て専務取締役就任。
2017(平成29)年袋井商工会議所の副会頭就任。
2022(令和4)年袋井商工会議所の会頭就任。
2025(令和7)年同会頭、2期目就任。

地域の女性リーダーとして 男女を区別しない運営

2022(令和4)年11月に、静岡県内では女性として初めて袋井商工会議所の会頭に就任しました。全国515の商工会議所を見渡しても、就任当時で3人、現在でも4人しか女性会頭はいません。就任と同時に、副会頭の1人に田中江里子さんを抜擢し、すでに事務局長だった内野雅代さんとともに、女性3人が重責を担っています。

とはいえ、商工会議所の会員の代表者で構成される議員総会(定員100人)はまだまだ「男社会」です。議員のほとんどは各企業の社長で、女性は少数です。私は少しでも女性の議員数を増やしたいと考えています。

男性ばかりの中でやりにくさは

ないか、と聞かれることもありましたが、私自身は「女性」を意識することはなく、「人と人として」接するようにしていますので、やりにくさを感じることはありません。商工会議所でも、また所属先の丸尾興商株式会社でも、「男女を区別しない運営」をめざしています。

健康経営と環境づくり

大学卒業後、父の経営する卸売業の丸尾興商株式会社で働き始め、経理部長を経て専務取締役に就任しました。大きな転機となったのは、子どもが生まれた時でした。

当時(1990年代)は育児休暇もなく、妊娠・出産したら仕事を辞めるのが当たり前の時代でした。でも、私は仕事を辞めずに働き続けました。仕事に必要な簿記や建築・土木に関するさまざまな資格を取得しようと、睡眠時間を削って勉強しました。結果、無理がたたって体に影響が出てしまいました。そうした経験から、私は「健康経営」の推進に力を入れるようになりました。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に



商工会議所主催のセミナーの様子

女性が活躍できる社会へ

女性が活躍できる社会を実現するために、社会構造をいきなり変えるのはなかなか難しいです。だから、まずは会社が変わることが大事だと私は考えています。環境づくりと、社員同士が助け合う「お互い様」という考え方が大切だと、日ごろから従業員に話しています。

実践することにより、性別に関わらず誰もが働きやすい職場の環境を整える取り組みです。生産性の向上や組織の活性化にもつながります。さらに男性も育休を取りやすくなる等、男女共同参画の姿勢を打ち出すことで採用活動にもプラスになったり、会社のイメージアップにもなります。

「女性が管理職になりたがらない」という話はよく聞きますが、やりたくてもできない人も多いです。しかし、男性の育休取得を増やし、育児に主体的に関与する等、家庭内協力を会社側が支援するといった制度や、職場の理解があれば、もっと多くの女性が活躍できます。私がめざしているのは、毎日元気でへこたれないで仕事を楽しくやる、そんな「輝く女性」を増やしたいということです。そのためにも、自分の仕事を好きになり、誇りややりがいを持つことの大切さを従業員、特に若い人たちに実感してほしい。それが会社を変える力になり、ひいては社会構造を変えていくことにもつながっていく、と私は考えています。そういう風に思ってくれる従業員が増えるよう、経営者側としてもバックアップしていきたいです。

商工会議所主催の働く女性を対象にしたセミナーで講師を務める時、私が強調するのは、「女性側の気づきや意識改革も重要」ということです。手を上げて、積極的に意見を言う女性が増えれば、いい。以前は、そもそも女性が意見を言えるような「場」にいられな

取材を終えて

取材を通して、豊田さんが「男性か女性かを意識しないで、一人の人として向き合うことが大切」と語っていた点が印象に残った。性別に関わらず、会社の取締役や商工会議所の会頭を務め、リーダーとしての重責を担うことは、並大抵のことではない。その背景には、人一倍努力を重ねてきたこれまでの歩みがあり、今の豊田さんがある。その姿そのものが、これから働き方や生き方を考える若い世代への、そして地域の女性たちへのエールになっている。